



つん張り校舎から木造二階建て校舎へ

大正2年から続いた地域の象徴ともいえる「つん張り学校」は昭和30年3月で42年間の幕を閉じることとなりました。老朽化が進んだ校舎を立て直すことになり、とりあえず中央部二階建て木造校舎の西側半分が昭和30年5月19日に完成しました。

つん張り校舎から木造二階建て校舎への改築は二段階に分けて行われました。

昭和32年度入学式

第一期工事完了後2年目



入学式の日校門付近



校庭で行われた入学式式典

第一期改築時は寄棟造りのつん張り校舎はまだ東半分を占めていたわけで新旧繋ぎ合わせの状態が5年間続きました。

この間に旧校舎内部を改装し、昭和33年6月6日、全校児童がそろって食事できる給食室兼講堂教室ができました。

第一期工事期間中、工事との関連で授業がどのように進められたのか調べてみました。

同じ敷地に新しく校舎を建てるため、まず校舎の西半分を壊しました。残った教室は、つん張り校舎東側部分に2教室、離れのトタン屋根の教室1教室、あわせて3教室です。全校児童が授業を受けるには当然教室が足りません。考え出されたのが二部制の授業でした。

学校沿革史によると昭和29年12月13日に二部制授業を開始し、同時に校舎西半分の解体作業を始めたとあります。

第一期工事の竣工は新年度になってからの昭和30年5月19日。二部制授業を廃止し新校舎での授業が開始されたのは5月25日でした。第一期工事では二階建て部分を含めて作ったので全学年分6教室の確保ができたのです。第二期工事で旧校舎部分を取り壊し全面改築が完了したのは昭和35年8月30日でした。

完成した切妻屋根の新校舎は真ん中が一部二階建てで当時としてはモダンな造りでした。この木造校舎(写真下)は現在の場所に新築移転するまで28年間にわたって使用されました。



全面改築が済んだ中央部2階建て木造校舎 (S.35.8.30)

写真上
写真下
新校舎玄関の左手にはつん張り校舎の左手にわずかに新校舎部分が写っている。